

第3次宗像市コミュニティ基本構想・基本計画 将来像と基本理念

これまで【第2次】

基本理念

成熟した
コミュニティ
(運営基盤の強化)

個性が輝く
コミュニティ
(地域特性を活かした事業展開)

つながりひろがる
コミュニティ
(多様な担い手による連携)

地区の個性を活かして
より高く、大きく成長する
ことを目指して
組織・事業を強化・充実

【組織の強化 (= 枝の成長)】

[成果] 部会や構成員の見直し、ボランティア人材の活用
人材育成のため研修会で地域の学び合いを促進
事務局処遇の見直しや労務等の共通仕様の整備
[課題] 担い手・役員の成り手不足、組織の固定化
ボランティア人材の継続的な活用

【事業の充実 (= 葉の成長)】

[成果] 地域の強みを活かした新たな事業の実施
防災等の新たな課題への取り組み強化
小中学校や大学等との連携事業の増加
[課題] 事業の固定化・マンネリ化、参加者の固定化
子どもや若い世代の参加、参画

【地域・住民 (= 幹) の実態把握】

[課題] 住民ニーズの把握が十分行えていない
地区の強み(特色)と弱み(課題)の再確認
地域活動への関心の低下 (自治会加入率の低下)
高齢化や核家族化の進展 (社会的孤立の増加)
価値観やライフスタイルの変化
(地域参画の機会・時間の減少)

【基本的な考え (= 根) の揺らぎ】

コミュニティ施策が本格化して20年が過ぎ、
“コミュニティ”が当たり前のものとして地域・行政内で定着
[課題] 市民参画条例の理念や協議会設立時の理想の薄れ
まちづくり計画の見直し、住民周知と啓発

これから【第3次】

将来像

子ども・若者から高齢者まで、すべての世代が参加・参画する
持続可能なコミュニティ

～10年先、20年先の未来に向けて種を蒔く～

多様な住民の参画から次世代の育成へ

④ 実をつけ
種を蒔く

- 多様な住民が永く関わる
(誰もが気軽に関われる体制づくり)
- 次の仲間とつながる、育てる
(次の担い手確保、コミュニティへの愛着の醸成)

より永く、親しみやすく育つために“幹”にあった組織や事業の見直し

- 担いやすい組織を考える (協議会・自治会の役割の整理、組織運営の見直し
多様な住民が関わるができる組織への転換)
- 仲間を増やす、高め合う (新たな人材の発掘、学び合いによるスキルアップ)
- 地域以外にも仲間をつくり、「できること」を増やす
(他地区、学校、企業、市民活動団体等、多様な主体との連携・協働)
- 「すべきこと」「やりたいこと」を実践する
(多様な住民の共感を呼ぶ事業展開、事業規模の適正化、効果的な事業展開
地区の特色を活かした取り組みの強化)

地域の実態、人の変化を捉え、「できること」「すべきこと」を整理する

- 住民同士が互いを理解する (社会状況や住民の価値観の変化への理解)
- 地域を分析、把握する (住民意見・ニーズの把握、地域の特色と課題の再確認
地域と協働すべき行政課題の精査)
- 「できること」「すべきこと」「やりたいこと」を整理する
(事業の取捨選択、ニーズを踏まえた事業検討、行政と地域の役割に合わせた事業精査)

基本的な考えに立ち返る

① 根
を確かめる

- 「協働」「コミュニティ」を確かめる
(市民参画条例、コミュニティ施策の理念、行政の役割と地域の役割)
- コミュニティの“よさ”を発信する (住民への情報発信)
- 地域の目指す姿を考える (地区の将来像の語り直し、地区内での対話)

③ 枝・葉
を整える

② 幹
を知る

事業

組織

地域・住民

基本の考え